



SDGs目標は世界のモノサシ

2015年9月の国連サミットにおいて、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するためのSDGs目標(Sustainable Development Goals)を採択しました。

これは、17の目標(到達目的)と169のターゲット(標的や目標)から構成されています。だれ一人取り残さないことを表記し、あらゆる課題を横断的に考え、解決するために国際社会が合意した約束です。

このSDGs目標はもしかすると地域のモノサシになるのではないかと私は考えています。

この17の目標は3つの階層に分かれています。

基礎となる自然資本

- 6 安全な水
- 13 気候変動対策
- 14 海の豊かさを守る
- 15 陸の豊かさを守る

中間を支える社会資本

- 1 貧困をなくす
- 2 飢餓をなくす
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育
- 5 ジェンダー平等
- 11 住み続けられるまちづくり
- 7 クリーンなエネルギー
- 16 平和と公正をすべての人に

経済と生産の目標

- 8 働きがいと経済成長
- 9 産業技術革新の基盤
- 10 人や国の平等
- 12 作る責任と使う責任がのっかります

そして全体を貫く

- 17 目標達成のためのパートナーシップ

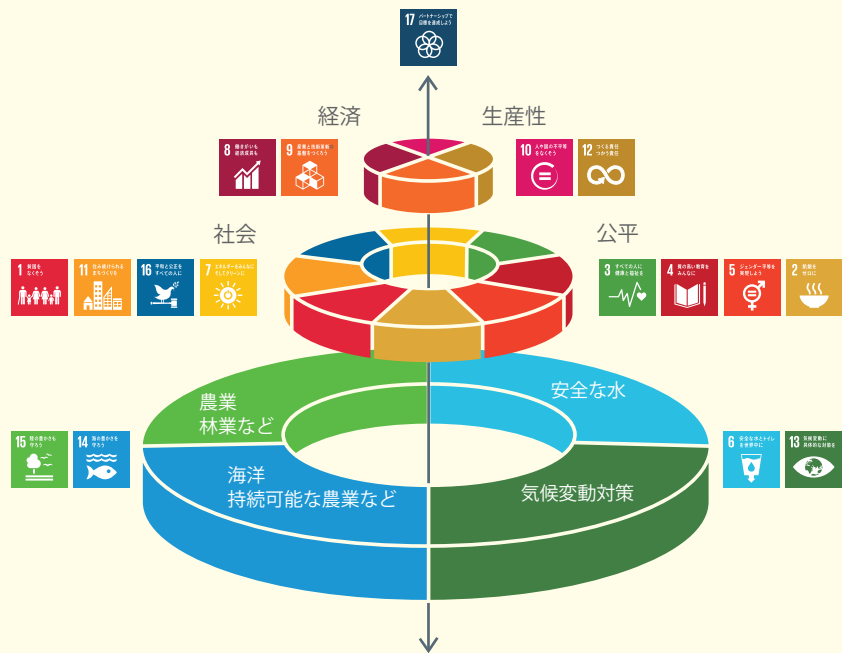
SDGsは国際社会において合意された目標であり、地域の現状を照らし合わせて考えた場合、一見違和感のある到達目標もあります。あるいは足りていない部分もあるように感じています。

国際目標なんて大げさに聞こえますし、地域の課題と一見かけ離れているように見えます。しかし、実際には日本中どんな地域でも、食卓には遠い国からやってきた材料で

できた料理が並んでいますし、1次産業の生産物は外国産との競合にさらされ、消費資材は輸入品が大半を占め、あらゆる生産のための技術に国境はなくなりつつあります。つまり地域の課題は国内の課題と絡み合い、国境をはるかに超えてさらに複雑に絡み合っています。地域に住んでもグローバル化とは無縁ではないのです。

このような時代にこそ先を見据える目標が必要とされます。このモノサシのよいところは、この先10年あるいはもっと先に自分たちの住む地域がどうありたいか?というアイデアがたくさん含まれています。

しかもそれは共通言語として他の地域あるいは国や世界と共有できます。



参照:SDGsのウェディングケーキ
Sukhdev(<http://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>)

そしてさらに重要なことは、目標を一つずつ達成するのではなく、17の到達目的と169のターゲットが関連しており、地域内あるいは地域外との連携が相乗効果を生み出すというイノベーション(変革や新たな価値の想像)の可能性をたくさん含んでいることも特徴です。

「誰も取り残さない」という基本原則と、目標達成のためのパートナーシップの理念が貫かれているからこそ、共通のモノサシで地域がともに「持続的であろう」とすることができると考えています。

詳しく知りたい方は「SDGs」で検索してみてください!